

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、
東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、電源開発、イーレックス（注）、
レノバ（注）、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	5
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 87 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 23 名（所属先 19 社）である。（氏名等は 88 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 84～86 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 62.7 点（昨年度 64.6 点）、総合評価点の標準偏差は 8.8 点（昨年度 6.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 72.4 点（昨年度 70.2 点）、電力・ガス部門（16 社）が 59.7 点（昨年度 62.8 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 73.3 点（昨年度 71.7 点）、鉱業 71.2 点（昨年度 68.0 点）、ガス 68.1 点（昨年度同得点）、電力 56.9 点（昨年度 60.4 点）となった。昨年度に比べ、電力会社およびガス会社の多くが総合評価点を下げた。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 63%（昨年度 68%）、説明会等が 61%（昨年度 69%）、フェア・ディスクロージャーが 84%（昨年度 65%）、

ESG 関連が 60%（昨年度 58%）、自主的情報開示が 61%（昨年度同率）となった。なお、フェア・ディスクロージャーの平均得点率が、昨年度に比べ大幅に上昇しているが、これは、当該分野の各評価項目の得点率が大きく改善したこと（下記④参照）に加え、昨年度低水準であった評価項目（1 項目）が削除された影響がある。

- ④ 評価項目（全 11 項目）について見ると、次のとおり、フェア・ディスクロージャーの 2 項目は平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

- (a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率 98%〔昨年度 86%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：80%2 社・90%1 社・100%18 社）
- (b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 81%〔昨年度 70%〕）（得点率：70%台 4 社・80%台 16 社・90%台 1 社）

- ⑤ 一方、次の、経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目（本年度の新設項目）は、平均得点率が 20%となり、全項目の中で最も低くなった。得点率を見ると、評価対象企業の多くが 10%台以下となっており、当該企業には今後の改善を強く求めたい。

- ・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 20%）（得点率：10%未満 7 社、10%台 10 社・30%台 1 社・70%台 3 社）

- ⑥ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。

- (a) 「非財務情報（ESG 情報等）について、株式市場が求める定性および定量面での開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 62%〔昨年度同率〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 6 社・60%台 11 社・70%台 3 社）
- (b) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率 61%〔昨年度 59%〕）（得点率：40%台 8 社・50%台 11 社・60%台 2 社）
- (c) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」（平均得点率 54%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 4 社・50%台 6 社・60%台 5 社・70%台 3 社・80%台 2 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ENEOS ホールディングス（総合評価点 75.8 点〔昨年度同得点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（得点率（以下省略）79%）、説明会等（74%）、自主的情報開示（72%）が第 4 位、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 5 位（86%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の得点率が、昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった。「IR 部門の機能」（同得点第 6 位）も、得点率が改善した。これらに関連して、社長以下経営陣の IR 姿勢は積極的であり、経営の考え方を聞く機会が多いとの声や、経営陣に投資家の声を聴く姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、IR 部門の質が高く、IR 活動もプロアクティブであるとの声もあった。なお、「社外取締役との対話」は、同得点第 10 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が、同得点第 2 位となった。これに関連して、事業環境の見通しに関する意見交換は参考になるとの声や、各キャッシュフローの見通しが説明されている点を評価する声が寄せられた。「説明資料等における開示」（第 6 位）については、昨年度に比べ得点率が大きく下がった。これに関連して、成長投資から期待するリターンの開示が不十分との声や、セグメント毎の増減益要因についての説明の充実を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 5 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、

80%以上となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」が、最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が共に、第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、カーボンニュートラル計画を迅速に発表するなど、開示面でも業界をリードしているとの声が寄せられた。また、ESG 情報の提供に積極的であり、データや説明が充実しているとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は第4位となった。なお、事業説明会の開催を望む声もあった。

なお、当専門部会において検討した結果、本年度の当業種における優良企業はなしとなった。

第2位 日本瓦斯（総合評価点 74.4 点〔昨年度比－2.0 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第1位（80%）、**説明会等**が第2位（78%）、**ESG 関連**が第3位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（74%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**および**自主的情報開示**を除く3分野の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」（第2位）および「経営陣の IR 姿勢」（第3位）は共に、評価された。これらに関連して、マネジメントおよび IR 部門が一体となって IR 活動に取り組み、内容にも工夫が見られるとの声や、役員が IR トップであり、責任をもって活動をしているとの声が寄せられた。なお、成長戦略について、ビジョンから具体的な数値に落とし込んでいくことを期待するとの声もあった。「社外取締役との対話」は、同得点第6位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が第2位、「説明会、インタビューにおける開示」も、同得点第2位となった。これらに関連して、定量データが充実しており、また、事業環境見通しに係る意見交換を行うなど有益であるとの声が寄せられたほか、四半期ベースの詳細な業績数値の開示を評価する声もあった。なお、業績数値に関するリスクの積極的な開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第3位）も、高い評価となった。これらに関連して、決算説明会の動画を質疑応答まで含めてウェブ配信していることを評価する声がある一方、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を求める声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が、最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これらに関連して、統合報告書における、資本戦略や TCFD のシナリオ分析に関する記述を評価する声があった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（同得点第13位）については、平均得点率と同程度であった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第1位となった。これに関連して、テーマ性のあるスモールミーティングの開催や、月次情報の充実を評価する声があった。なお、長期的な収益ビジョンに関する定量面での開示の充実を望む声もあった。

第3位 出光興産（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 72.1 点〔昨年度比＋4.0 点、一昨年度比＋8.3 点〕、昨年度第6位〔一昨年度第12位〕）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第1位（78%）、**ESG 関連**が第5位（67%）、**自主的情報開示**が同得点第6位（66%）、**説明会等**が第7位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が第18位（80%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において得点率が改善したことから、総合評価点の大幅な上昇となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が、最も高い評価となった。「経営陣の IR 姿勢」（第5位）および「IR 部門の機能」（同得点第6位）は共に、昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣が投資家との対話を重視していることや、IR ヘッドをはじめ IR 担当者の意識の高さを評価する声が寄せられた。また、社外取締役とのディスカッションが有意

義であるとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（第 5 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、順位も上げた。一方で、「説明資料等における開示」（同得点第 8 位）は、得点率が下がった。これに関連して、説明会資料の内容を評価しつつ、ROIC 関連の KPI の記載を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 10 位）が、平均得点率と同程度となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」については、同得点第 20 位となった。これに関連して、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を望む声のほか、グループ会社に関する報道が開示に先行したことは残念との声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が共に、同得点第 4 位となった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（同得点第 6 位）については、昨年度に比べ得点率が下がった。これらに関連して、社外取締役が ESG トップセミナーに登壇したことを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第 6 位となった。これに関連して、事業見学会の機会に、注力する分野の説明を充実させた点を評価する声があった。なお、低炭素につながる技術説明会の開催を望む声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **石油資源開発**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.3 点〔昨年度比+3.5 点、一昨年度比+5.9 点〕、第 5 位〔昨年度第 8 位、一昨年度第 9 位〕）

- ① 同社は、**説明会等**が第 1 位（79%）、**自主的情報開示**が同得点第 1 位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（88%）、**ESG 関連**が第 4 位（67%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 8 位（67%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて順位を上げた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 3 位となり、「経営陣の IR 姿勢」（第 8 位）も、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、経営トップの積極的な対話姿勢や、IR 部門の細やかな数値開示を評価する声が寄せられた。なお、「社外取締役との対話」は、同得点第 16 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が、最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」も第 4 位となったことから、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、決算説明資料は定量的なデータが豊富になり、わかりやすくなってきているとの声や、増減益説明などのプレゼンテーション資料が優れているとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が、満点評価となった。また、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」（同得点第 3 位）も、高い評価となった。なお、質疑応答を含む説明会議事録のウェブサイトへの掲載を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」が第 4 位となり、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」も、同得点第 4 位となった。これらに関連して、統合報告書での TCFD シナリオ分析を評価する声があった。なお、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は、平均得点率と同程度となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は、同得点第 1 位となった。これに関連して、見学会の開催を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

ENEOS ホールディングス (総合評価点 75.8 点、全体第 1 位)

【電力・ガス部門】

日本瓦斯 (総合評価点 74.4 点、全体第 2 位)

以 上

2022年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（エネルギー:全体）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5020 ENEOSホールディングス	75.8	25.7	5	14.7	4	4.3	5	27.5	1	3.6	4	2
2	8174 日本瓦斯	74.4	26.0	4	15.6	2	4.4	3	24.4	3	4.0	1	1
3	5019 出光興産	72.1	27.4	1	13.9	7	4.0	18	23.5	5	3.3	6	6
4	5021 コスモエネルギーホールディングス	72.0	26.6	3	15.2	3	4.2	10	23.0	6	3.0	9	4
5	1662 石油資源開発	71.3	23.6	8	15.7	1	4.4	3	23.6	4	4.0	1	8
6	1605 INPEX	71.0	23.8	7	13.1	9	4.3	5	26.8	2	3.0	9	5
7	9508 九州電力	68.7	26.9	2	10.6	14	4.5	2	23.0	6	3.7	3	6
8	9532 大阪瓦斯	67.4	23.0	10	14.1	5	4.2	10	22.8	9	3.3	6	3
9	9531 東京瓦斯	66.5	21.9	12	14.0	6	4.3	5	22.9	8	3.4	5	9
10	9503 関西電力	64.7	24.0	6	12.9	10	4.2	10	20.7	12	2.9	14	17
11	9533 東邦瓦斯	63.8	22.0	11	13.6	8	4.2	10	21.0	11	3.0	9	12
12	9519 レノバ	62.9	23.1	9	12.9	10	4.6	1	19.5	14	2.8	15	
13	9513 電源開発	60.9	19.6	17	12.7	12	4.1	17	21.5	10	3.0	9	13
14	9502 中部電力	58.3	20.8	15	10.5	15	4.2	10	20.3	13	2.5	17	10
15	9509 北海道電力	57.1	21.1	13	10.0	16	4.3	5	19.0	15	2.7	16	13
16	9507 四国電力	56.6	20.6	16	9.9	17	4.2	10	18.9	16	3.0	9	16
17	9517 イーレックス	54.5	21.1	13	11.1	13	3.8	20	15.4	21	3.1	8	
18	9504 中国電力	51.4	17.3	18	9.4	18	4.2	10	18.2	17	2.3	19	18
19	9506 東北電力	50.4	16.7	20	8.9	20	4.3	5	18.2	17	2.3	19	18
20	9505 北陸電力	49.9	16.5	21	9.1	19	3.9	19	18.1	19	2.3	19	20
21	9501 東京電力ホールディングス	46.7	16.8	19	8.1	21	3.6	21	15.8	20	2.4	18	21
	評価対象企業評価平均点	62.69	22.11		12.19		4.20		21.16		3.03		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目3 (配点 35点)	評価項目1 (配点 5点)						
1	8174 日本瓦斯	74.4	26.0	2	15.6	1	4.4	3	24.4	1	4.0	1	1
2	9508 九州電力	68.7	26.9	1	10.6	9	4.5	2	23.0	2	3.7	2	3
3	9532 大阪瓦斯	67.4	23.0	5	14.1	2	4.2	7	22.8	4	3.3	4	2
4	9531 東京瓦斯	66.5	21.9	7	14.0	3	4.3	4	22.9	3	3.4	3	4
5	9503 関西電力	64.7	24.0	3	12.9	5	4.2	7	20.7	7	2.9	9	12
6	9533 東邦瓦斯	63.8	22.0	6	13.6	4	4.2	7	21.0	6	3.0	6	7
7	9519 レノバ	62.9	23.1	4	12.9	5	4.6	1	19.5	9	2.8	10	
8	9513 電源開発	60.9	19.6	12	12.7	7	4.1	13	21.5	5	3.0	6	8
9	9502 中部電力	58.3	20.8	10	10.5	10	4.2	7	20.3	8	2.5	12	5
10	9509 北海道電力	57.1	21.1	8	10.0	11	4.3	4	19.0	10	2.7	11	8
11	9507 四国電力	56.6	20.6	11	9.9	12	4.2	7	18.9	11	3.0	6	11
12	9517 イーレックス	54.5	21.1	8	11.1	8	3.8	15	15.4	16	3.1	5	
13	9504 中国電力	51.4	17.3	13	9.4	13	4.2	7	18.2	12	2.3	14	13
14	9506 東北電力	50.4	16.7	15	8.9	15	4.3	4	18.2	12	2.3	14	13
15	9505 北陸電力	49.9	16.5	16	9.1	14	3.9	14	18.1	14	2.3	14	15
16	9501 東京電力ホールディングス	46.7	16.8	14	8.1	16	3.6	16	15.8	15	2.4	13	16
	評価対象企業評価平均点	59.66	21.09		11.47		4.19		19.99		2.92		

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業部門)

(単位:点)

順位	評価項目 総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位		
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 35点)			評価項目1 (配点 5点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位		評価点	順位
1	5020 ENEOSホールディングス	75.8	25.7	3	14.7	3	4.3	2	27.5	1	3.6	2	1
2	5019 出光興産	72.1	27.4	1	13.9	4	4.0	5	23.5	4	3.3	3	4
3	5021 コスモエネルギーホールディングス	72.0	26.6	2	15.2	2	4.2	4	23.0	5	3.0	4	2
4	1662 石油資源開発	71.3	23.6	5	15.7	1	4.4	1	23.6	3	4.0	1	5
5	1605 INPEX	71.0	23.8	4	13.1	5	4.3	2	26.8	2	3.0	4	3
	評価対象企業評価平均点	72.44	25.42		14.52		4.24		24.88		3.38		

2022年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	1
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
・非財務情報（ESG情報等）について、株式市場が求める定性および定量面での開示に積極的に取り組んでいますか。	15
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	西川 周作	大和証券
	松本 繁季	野村證券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	SBI 証券

評価実施アナリスト（23名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
和泉 美治	SBI 証券	野田 健介	ニッセイ アセット マネジメント
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大野 高	三菱 UFJ 信託銀行	福元 千佳	JP モルガン証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	松本 繁季	野村證券
神近 広二	SMBC 日興証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山崎 慎一	SBI 証券
佐久間 聡	QUICK	渡辺 真理子	UBS 証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。